

◀ インタビュー ▶ ④

大卒や大学院卒を「大工や職人」として正社員で採用し、外注をせず自社内で一切をまかなう「内製化」で注目を集める㈱平成建設。代表の秋元久雄氏は、厳しい。

中堅ゼネコンやハウスメーカー勤務後に同社を設立。今や大学生の就職希望先キング（ゼネコン部門）でベスト10に入る。建設不況の中で業績も右肩上がりだ。静岡のみならず神奈川にも出店し、来年は東京へ



改善の余地多い業界

秋元 「取り付け歴」の作業員はいるが、仕事のできる大工や職人が減っている。今の大手や職人の多くは50〜60歳。10年後20年後はどうか。日本の危機ともいえ

「一方で大工や職人の高齢化も問題となっている。東京はあらゆる企業が沢山揃っているからむしろ埋没するだけ。田舎なら日ターン組をつかまえられる。」



㈱平成建設(静岡県沼津市)代表取締役社長

秋元 久雄 氏

儲からない会社はやめろ

「公共事業減で建設業者でどれだけ仕事を取れるか」それが公共も民間も

ダメという状況で、会社もチャレンジするしかない。失敗するのは当たり前で、試行錯誤を繰り返して万社は多すぎる。そもそもどうして建設業をやっているのか。地方中小の多くは「伝統建築を守るために家業で建設業をやっているが、本来は伝統があつてほしいところだが、平成建設家業。それを継承しただけで家業をやっている。スピード紙と専門紙を持って打ち合わせにいくだけ。のも10年あればやってやれないことはない。会社を未来に永劫やりたいならば、儲かり・ムダ・ムラが多く、改善の余地が無限にある。建設会社が生き残るため、どうすれば良いか。倒産は多くの人に迷惑がかかるが、やめられる時に整理して廃業すれば誰にも迷惑がかからない。

山梨建設新聞（平成二十一年七月二十九日）・群馬建設新聞（平成二十一年七月二十九日）・新潟建設新聞（平成二十一年七月二十九日）
埼玉建設新聞（平成二十一年七月三十日）・長野建設新聞（平成二十一年八月五日）にも同じ記事が掲載されました。